

## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第83回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

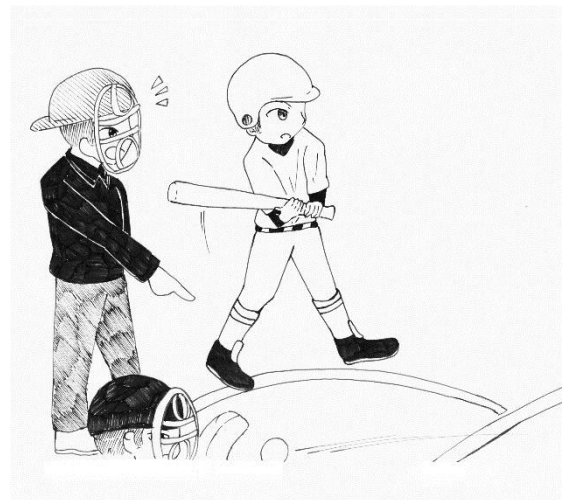
グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

**マナー編 「投手の準備投球中の打者の待つ場所（安全、そして投手は打者を待たせない、打者は投手を待たせない。テンポの良い試合進行を。）」**  
(2017年秋季県大会より)

準備投球中も打者がダートサークル内に足を置いて待っていました。球審がその打者に声を掛けたところ、ダートサークル内から速やかに出て準備投球が終わるのを待っていました。球審はなんと声を掛けていたのでしょうか?

打者は準備投球が終わり次第、速やかに打者席に入り、打撃姿勢をとるように日頃から指導されています。そこで準備投球中も片足がダートサークル内にかかるような位置で待ち、準備投球の完了を待っていたのです。球審は打者の姿勢を認めながらも、**準備投球は投手に与えられた正規の行為であり、その間は投手優先**としてダートサークル外付近で待つように指導したのです。更に、準備投球が暴投となり、打撃姿勢にない打者に投球が当たる可能性もあるという**安全にも留意**して指導したのです。

なお、ダートサークル外とは言え、捕手のやや斜め後方の角度に位置する選手も散見されました。球筋を見極めようとする意図かもしれませんが、安全性という点で問題があります。投手が準備投球を気にせずできるよう、**待機する位置は打者席と平行に位置するダートサークル外付近**を徹底してください。

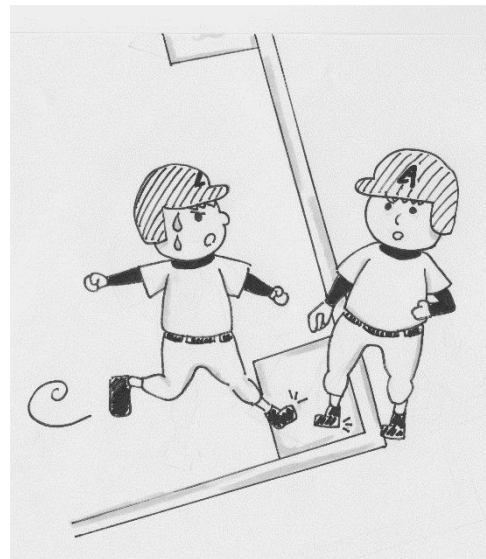


ルール編 「同一塁の2走者の占有権は？（フォースの状態とそれ以外では異なる）」 （2017年秋季県大会より（改））

走者1塁、打者が内野ゴロを打ち、野手は2塁へ送球したが送球がそれのため1塁走者はセーフの判定。ところが1塁走者はアウトになったものと勘違いしたのか2塁を離れ、自軍ベンチ(一塁側)に戻ろうとした。その行動につられたのか、野手が一塁走者を追いかけたため、1・2塁間でランダウンプレイとなり、1塁塁上に1塁走者と打者が位置することになった。果たして、1塁の占有権は走者なのか、打者走者なのか？

同一塁上の2走者のケースとしては、3塁塁上に3塁走者と2塁走者が位置(走者2・3塁、スクイズプレイを外され、3・本塁間でランダウンプレイとなり、3塁走者が3塁に帰塁、2塁走者が3塁に進塁)することが代表的な例です。この場合、3塁の**占有権を有するのは3塁走者**となります。(野球規則 5.06(a)(2))但し、同条で「ただし、本条(b)(2)項適用の場合を除く」とあります。

野球規則 5.06(b)(2)「打者が走者となったために進塁の義務が生じ、二人の走者が後位の走者が進むべき塁に触れている場合には、その塁を占有する権利は後位の走者に与えられているので、前位の走者は触球されるか、野手がボールを保持してその走者が進むべき塁に触れればアウトになる。」により、上記ケースの場合、**占有権は打者走者**にあります。1塁走者の勘違い、守備側の混乱、審判員のジェスチャー・発声といった幾つかの要素が絡んだ珍しいケースとも言えますが、ポイントとしては、**1塁走者はいわゆるフォースの状態になっている**ということです。フォースの状態にあるわけですから、仮に3塁に走者がいて、2死の際にこのプレイの間に3塁走者が本塁に到達していても、得点は認められません。



イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科  
マナー編: 吉田 那奈さん (2年)  
ルール編: 川上 わか菜さん (2年)